

題名：横浜労災病院で循環停止を用いた胸部大動脈の手術を行った患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	循環停止を用いた胸部大動脈手術患者における神経学的予後の検討 (2025-21)
当院の研究責任者 (所属)	峠坂浩輝（横浜労災病院 中央集中治療部）
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	心臓血管外科手術では、人工心肺を用いる合併症として脳梗塞などの脳血管合併症があります。中でも、低体温下で血液循環を一時的に止める循環停止下では、脳への血流が一時的に途絶する影響で低酸素脳症が出現する可能性があります。 院外で心肺停止となった方の脳神経機能の回復度合いと、発症後血液中のNSEという値が関連することが知られています。 脳への血流が一時的に低下するという意味で同様の状態が起こりうる「循環停止」を用いた手術後の、脳神経機能と、血液中NSE値の関連がある可能性があります。 術後血液中のNSE値を用いて術後脳神経機能を予測することで、循環停止を用いた手術後の患者さんの治療方針の決定の手助けとなる可能性を探ることを目的としています。
研究の方法 (利用する試料・情報)	研究実施期間：2023年9月～2027年3月 年齢、診断、術式、術者、手術時間、人工心肺時間、大動脈遮断時間、循環停止時間、選択的脳灌流時間、最低体温、脳酸素飽和度、術後NSE値、送血管位置、逆行性脳灌流までの時間、選択的脳灌流までの時間、術中バランス、頸動脈狭窄の有無、退院時死亡の有無、退院時Cerebral Performance Category
利用する試料・情報の 該当期間	2023年9月～2027年3月
試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	なし

個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：峠坂浩輝（所属：中央集中治療部）
備考	